

松かさ病



エルバージュエース

エロモナス ハイロフィラという細菌が感染する病気です。しかし、この細菌が関与していない場合にも発生することがあり、詳しいことは説明されていません。
病名が示す通りウロコが逆立ち、松かさのようになります。この病気は水質が悪化した時に起こりやすく、症状が進行すると病魚はゴム粒のようになり、さらに眼球が突出することもあります。治療にはエルバージュエースを投薬しますが、投薬前に飼育水を1/3~1/2程換水し、水質の悪化を少しでも改善することが重要です。

【治療法】

- ①飼育水を1/3~1/2程水温を合わせた水で交換（水質を少しでも改善するため）します。
- ②エルバージュエースで薬浴します。

穴あき病



グリーンFゴールドリキッド エルバージュエース

観パラD

エロモナス・サルモニダという細菌の感染によって発症する病気です。初期症状は鱗の数が充血します。充血は徐々に範囲を広げ、鱗が剥がれ落ち、やがて筋肉が露出するほどの孔があき、この孔が「穴」に見えることから穴あき病といわれています。この病気は体液の流出により浸透圧調整が出来なくなり、露出した部位から他の病気に感染しやすくなり、魚が死に至る原因となります。

【治療法】

- ①可能な限り飼育水を1/3~1/2程水温を合わせた水で交換します。
- ②グリーンFゴールドリキッド等の治療薬で薬浴します。
- ③魚の体の負担を和らげるために、薬と一緒に0.3~0.5%の塩を併用します。
- ④低水温を好む病原菌のため、できれば水温を25度くらいにゆっくりと上げます。（急激な温度変化は負担となります）

薬の診療所・使い方

観賞魚の診療所



グリーンFクリアーの使い方



白点病・尾ぐされ病治療例



グリーンFリキッドの使い方



白点虫の生活史



グリーンFゴールド顆粒の使い方



白点虫 仔虫の拡散



観パラDの使い方



水産用プラジクアンテルの使い方

飼料にプラジクアンテル1%混ぜたものに、オイルをスプレーして、更にかき混ぜると飼料の表面に付着した薬剤が中に浸透していきます。1日1回、3日間経口投与してください。



資料は日本動物薬品株式会社よりいただいています。

商品の不明点につきましては、下記にお問い合わせください。

日本動物薬品株式会社 お客様相談室

Mail: support@jpd-nd.com

魚の症状	考えられる病気
体に点状の出血をする	細菌性皮膚炎
体に白いワタのようなものが付いている	水生菌症(水カビ病)
ウロコが逆立ってきた	松かさ病
体やヒレに白い点がついている	白点病
ヒレの先端が白く濁っている	尾ぐされ病(初期)
ヒレが溶けてきた	尾ぐされ病
ウロコ1~2枚の周りに出血がある	穴あき病(初期)
体に穴が開いてきた	穴あき病

観賞魚用治療薬の使い方

●病魚をよく観察し、病気の種類を判別しましょう。

●フィルターから活性炭、ゼオライトなどの吸着系ろ材を取り外します。吸着系ろ材は薬品を吸着しますので、薬品の効果が出なくなる場合があります。また、スポンジなど吸着性に優れた底砂も同様です。

●水槽の水を1/3~1/2ほど取り替えます。水槽の中にある病原体を水槽外に出し、他の魚への感染率を低下させます。(水質の急変にデリケートな魚種の場合は特に注意して行ってください。)水換えの際、カルキ抜きは使用しても大丈夫ですが、pH調整剤や白濁除去剤などの使用は控えてください。

●投薬する時は、水流の強い場所に投薬し、薬品がまんべんなく水槽内に溶け込むようにして下さい。

●病気の種類によっては、一度の投薬では効果が緩慢な場合があります。下記薬効期間を経過しても病気が完治していない場合は、飼育水を1/3~1/2程取り替えてから、再度投薬して経過をみます。

薬品名	薬効期間	水草
グリーンF、ニューグリーンF	5~7日間	×
グリーンFリキッド、メチレンブルー水溶液	5~7日間	×
グリーンFクリアー	10~14日間	○
アグテン、アグテンパウダー	2~3日間	○
グリーンFゴールド	5~7日間	×
グリーンFゴールドリキッド、観パラD	10~14日間	○
エルバージュエース	3~5日間	×

※薬効期間は水温・水質・天候などによって異なります。

・薬品は規定量を守って使用してください。

・能書をよく読んでご使用ください。

・海水魚・アロワナ・ポリプテリスなどの古代魚、大型ナマズ類には使用しないでください。

良くあるQ&A

Q: 水草が入っている水槽で薬を使用したいのですが

A: 基本的に薬と水草は相性が悪く、薬を水槽に入れると水草は枯れてしまいますので、投薬前に水草は取り除いてください。治療後は、水を2/3程度取り換えてから水草を植えるようにしてください。(ただし、グリーンFクリアー・観パラD・グリーンFゴールドリキッド・アグテン・アグテンパウダーは、水草を枯らしませんので、そのまま投薬していただいて大丈夫です。)

Q: 稚魚が入っている水槽に薬を使用したいのですが

A: 現在、市販されている観賞魚用治療薬は、稚魚に対して安全ですので、そのまま使用していただいて大丈夫です。

Q: 一匹だけ病気が発生したのですが、他の魚と一緒に薬を使用しても良いですか?

A: 病気の発生の初期段階と考えられます。飼育水中には、病原体が多数存在しています。そのままにしておくと他の健康な魚に感染しますので、水槽ごと薬浴してください。もし病魚を隔離して治療する場合は、元の水槽にも同様に薬を使用してください。

Q: 治療中フィルターは、どのようにしたら良いのでしょうか?

A: 治療中、フィルターは作動させたままで大丈夫ですが、ろ材にゼオライトや活性炭を用いている場合は、薬の有効成分が吸着されてしまうため必ず取り除いてください。また、治療後はフィルター及びろ材は良く洗ってください。

Q: 治療中の魚にエサは与えた方が良いでしょうか?

A: 治療中は、必ずエサを与えてください。エサを与えないと体力が消耗し、薬を使用してもなかなか治らないことがあります。普段より少なめに与えてください。

Q: 薬の保存方法を教えてください。また有効期間はどの位ありますか?

A: 市販の観賞魚用治療薬の多くは、湿気及び太陽光を嫌いますので、密封し日光が当たらない子供の手の届かない所で保管してください。このような状態で約3年間は使用可能です。できれば、購入日を記録しておくとう良いでしょう。また、保存状態が不十分で、薬が湿っていたり、変色している場合は使用しないでください。

Q: 薬を使用してはいけない魚はいますか?

A: ナマズ類、古代魚は特に薬に敏感ですので、使用できません。

Q: 薬を使用するとろ過細菌は死にますか?

A: ほとんどの観賞魚用治療薬はろ過細菌に影響を与えますが、病気が発生した水槽では、ろ材内にろ過細菌が定着せず、水質が不安定な場合が多いため、あまり気にすることはないと思われます。

Q: 病気が発生したとき、どのくらい塩を入れたら良いでしょうか?

A: 食塩は治療薬の補助として使用される場合が多く、例えば尾ぐされ病の治療には、グリーンFゴールド顆粒もしくは観パラDと食塩を併用すると良いでしょう。このときの食塩濃度は、0.3~0.5%(水量50Lに対し食塩150~250g)位です。

Q: 尾ぐされ病の治療後、なくなったヒレは再生しますか?

A: 尾ぐされ病の初期段階で治療した魚のヒレは再生します。再生したヒレが、やや黒くなる場合がありますが、徐々に元の色に戻ります。しかし、症状が進行し、ヒレが半分以上なくなった場合は元通りに再生することはできません。したがって、尾ぐされ病の治療は初期のうちに行うことが重要です。

Q: どのようにしたら病気が出ないようにすることが出来ますか?

A: 観賞魚で見られる病気は、魚のストレスが原因となることが多いです。魚にストレスを与える要因は下記の通りです。

病気の発生要因

エサの与え過ぎ/変質したエサを与えた/酸素不足/急激な水温の変化/病気の魚を持ち込んだ/水質の悪化(pH、亜硝酸塩濃度等)/スレ傷/魚が落ち着かない環境/過密飼育など

病気を出さないようにするには、これらの病気の発生要因が起らないよう、適切な飼育環境を維持することが第一です。つまり、日常の管理をしっかり行うことです。このことをしっかりと守っていただければ、仮に病気が発生したときでも、早期に見え、治療も比較的容易です。